

築85年の病棟保存・再生へ 南伊豆の旧湊海軍病院 オフィスに

南伊豆町湊にある旧湊海軍病院の病棟に使われていた木造2階建ての建物が保存され、「ツタの絡まるレトロなオフィス」として再生することになった。同町が計画する日本版CCCRC（生涯活躍のまち）の用地内にあり、80年以上前の古い建物で取り壊しも検討されたが、これを建てた建設会社が無償で外装の補修を申し出て実現した。

「記念碑的に」建設会社が無償で補修



ツタが絡まる旧湊海軍病院の病棟。「自然に囲まれたオフィス」の目玉にしたいという南伊豆町湊

建物は延べ床面積約840平方メートル。県教委がまとめた「県近代化遺産総合調査報告書」などによると、1932（昭和7）年の建設

で、旧湊海軍病院の建物のなかではただ一つ残っている。中央に廊下があり、両側に部屋が配置され、天井までの高さは4メートルほどで非

常にゆったりとした造りになっている。温泉のある療養所として利用されていたらしい。

戦後は厚生省に移管されて国立湊病院になり、国立病院の再編で97年、下田市など賀茂の市町が設置する共立湊病院に移行。2012年、湊病院が下田市に移転して下田メディカルセンターに名称変更するまで、病棟や倉庫として使われていた。現在は空き家で外周は窓もほとんど見えないほどびっしりツタに覆われている。

町では湊病院跡地を買い取って、移住者用の住宅やサテライトオフィス、ケア付き高齢者住宅などを整備する計画を立てている。この建物も利用できないかと検討していたが、補修に費用がかかることから断念していた。そんなところに、建物を建てた河津建設（本社・下田市、河津市元・社

長）から「外装の補修は無償でするので保存・活用してほしい」との申し出があった。河津社長は「初代社長時代に建設した建物で残っているのはここだけ。記念碑的なもので、残れば社員の上向きにもなるので提案した」と話す。

詳しく調べたところ、基礎や床材などはまだ十分使用可能だと確認された。河津建設が約2千万円かけて屋根や外装を直し、内部を事務所風に改装するのは町がする予定だ。景勝地の弓ヶ浜にも近く、古風な雰囲気もあって、東京の会社などで「完成すればぜひ入りたい」と興味を示すところが多いといわれる（石原幸志）。

H29年7月6日（木） 朝日新聞に掲載されました